

令和7年度 第2回仙台市地域保健・保健所運営協議会 議事録

開催日時	令和8年1月23日（金）14:30～
開催場所	市役所本庁舎8階 第一委員会室
委員 (敬称略)	石川由紀 小田島久美子、小菅玲、後藤知子、小林正裕、櫻井雅浩、佐々木慎一、下山田鮎美、高崎義輝、樋口香代、二木多香子、寶澤篤（委員長）、本田直子、松永弦 (欠席) 伊藤美由紀、郡山昌明、千石祐子、松野あやえ
事務局	健康福祉局 局長、理事、保健衛生部長、保健所長、保健所副所長、衛生研究所長、保健管理課長、医療政策課長、健康政策課長、地域包括ケア推進課長、予防企画課長、感染症対策課長、医務薬務課長、生活衛生課長、 こども若者局 局長、こども家庭部長、総務課長、こども家庭保健課長 教育局 健康教育課長 区役所 青葉区保健福祉センター所長、宮城野区保健福祉センター所長、若林区保健福祉センター次長、太白区保健福祉センター所長、泉区保健福祉センター所長
次第	1. 開会 2. あいさつ 3. 議事 (1) 委員長選任 (2) 委員長職務代理者指名 (3) 令和7年度「仙台市いきいき市民健康プラン（第3期）」に基づく主な取り組み状況について (4) 令和7年度 保健所の主な取り組み状況について (5) その他 4. 閉会

1 開会

2 あいさつ

健康福祉局長あいさつ

《委員の紹介》

《職員の紹介及び協議会の成立報告》

3 議事

(1) 委員長選任

【下山田委員】

寶澤委員を委員長に推薦。

異議なしのため、寶澤委員が委員長へ就任。

《委員長あいさつ》

【委員長】

皆様とまたご一緒できることをうれしく思っている。私たちが子どもの頃と比べて、脳卒中やがんが死病で亡くなるが増え、「長く生きる」ということについて、この2、30年で状況が大きく変化したと感じている。脳卒中、心臓病、がんを乗り越えた後に、認知症やフレイルが課題として浮かび上がってきている。次に我々が考えていかなければならないのは、脳卒中・心臓病・がんの早期発見・早期治療・予防を徹底することに加え、これから新たに生じるであろう疾患を減らすこと、そして心の健康も含めて、みんなが幸せに長生きできる仙台市をどのように実現していくかという点である。皆様からさまざまなご意見をいただきながら、この会を進めていくことになると思っている。

前回も話題になったが、やる気のある方々はさまざまな取り組みに参加してくださる一方、そうではない方々をいかに巻き込んでいくかという課題がある。そのため、環境整備や機運醸成といった視点も、仙台市いきいき市民健康プランに盛り込まれていると理解している。

こうした点を踏まえ、より多くの市民が健康に暮らせるためにはどうすべきか、先生方から忌憚のないご意見をいただきながら進めていきたい。今後とも引き続きよろしくお願ひしたい。

(2)委員長職務代理者指名

【委員長】

松永委員を職務代理者へ推薦。

【委員長】

今回の議事録署名を小林委員に依頼。

(3) 令和7年度「仙台市いきいき市民健康プラン（第3期）」に基づく主な取り組み状況について

事務局（健康政策課長）から資料1のとおり説明

【佐々木委員】

アールク・ウゴークについて、アプリを活用した歩数管理について伺いたい。各イベントで歩いた歩数をアプリで管理するのか。また、ポイントのような仕組みがあるのか教えていただきたい。

【健康政策課長】

今年度10～11月に実施したアールク・ウゴーク月間では、まだPHRの導入準備が整っておらず、市民の皆様が各自のスマートフォンで歩数を確認する形で実施した。

一方、2月～3月開始予定の「アールク・ウゴーク月間第2弾」では、3種類のアプリを活用し、市民の皆様に取り組んでいただく予定である。3月1日には、先ほど街なか健康拠点として紹介したイオンモール上杉店においてイベントを実施する予定である。お近くにお越しの際には、ぜひお立ち寄りいただければ幸いである。

【委員長】

本件を含め、庁内での連絡・連携をとっていただきたいという話をしていたが、部局をまたいだ取組が増えており、大変素晴らしいと感じている。引き続きよろしくお願ひしたい。

【本田委員】

事前に資料を拝見し、非常にわかりやすかったが、局長、委員長が仰っていたように、仙台市民の中でも「健康意識の低い層」をターゲットにしているとの説明があった一方で、各取組がどの世代の、どのような層に向けたものなのかが分かりにくいと感じた。

私自身は60代後半で、野菜摂取が大事と言われる一方、加齢に伴いタンパク質を多めに取る必要があるなど、食事は年代によって最適解が変わる。

どの取り組みが、どの層に向けられ、どのタイミングで実施されるのか、また申し込みが必要なイベントなのか、偶然立ち寄れるものなのかといった点を整理して示していただけるとわかりやすいと感じた。

【健康政策課長】

ご指摘のとおりであり、今回の資料では対象層の明記が十分でなかった点は反省すべき点である。いきいき市民健康プランとメタボリックシンドローム対策の関係で申し上げると、若年期からの健康づくりが重要と考えており、こども若者局との連携、働き盛り世代へのアプローチとして協会けんぽ宮城支部・労働局との連携を行っている。

また、健康無関心層の取り込みは非常に難しい課題である。まったく関心のない層をゼロから動かすのではなく、「関心はあるが行動できていない層」が、イベントの体験、イオンを通りかかった際や、藤崎での健康チェックを体験する等の場を通して健康行動へ進むことを考えて実施している。

なお、尿ナトカリ比測定については、専門の管理栄養士が説明を行い、希望者には個別指導も実施しており、不安のある方にも丁寧に対応している。

【委員長】

健康無関心層の取り込みは確かに難しく、情報を受け取る気もなければ受け取ってもその気にならない層のため、周りから巻き込んでいく形や、「みんながやっているからやってみよう」という誘導も重要である。Instagramでインフルエンサーを活用することにより、普段健康情報に触れない層にも届いたという点は、面白い取り組みであり、取り組み方を変えながら実施していただいていることを心強く思う。

【下山田委員】

日曜健診について伺いたい。平日忙しい方を対象としている旨の説明はあったが、実際の受診者層はどうだったのか。

【健康政策課長】

手元に年代別等の詳細な統計はないが、当日は私も現場を見ていた。実際、家族連れの方が多く、足が不自由なお母様を息子さんが連れて来られた例や、出産後に健診機会がなかった方からの喜びの声などがあり、家族連れの皆様に届いたと受け止めている。

【下山田委員】

よくわかった。ターゲットに届いた事業と感じた。今後も広がっていくことを期待する。

【委員長】

小中学校を通じて保護者に周知するのは、健診を受けにくい層にも届くため、とても良い取り組みだと思う。

【二木委員】

日曜健診の申し込みについて、上限に達して受診できなかった方はいたか。また、日曜に受診できるのは大変良い取り組みであり、今後増やしていく予定はあるのか。

【健康政策課長】

本事業は宮城県対がん協会に取りまとめをお願いしている。胃がん検診の予約システムを活用したが、上限を超えることはなかった。ただ、今回の事業は結核予防会・宮城県健康センターを含む3団体で連携して実施したものであり、各団体が非常に精密に準備していただき、検診車も2台ずつご用意いただき、今年度は無事に事業を終えることができた。今後の拡充状況を見つつ、次年度以降も同じ会場で実施したいと考えている。

【二木委員】

広く市民に知られ、より多くの方に活用いただけると良いと感じている。

【委員長】

出張形式で実施していただくことになるため、経費や財源の確保についても検討が必要になると思う。全部の区で実施しようとする大変になるので、コストパフォーマンスも踏まえて検討いただければと思う。大変良い取り組みであるので、ぜひ引き続き継続していただきたい。

【高崎委員】

仙台大学で教員をしている関係で、柴田町・大河原町など複数自治体の健康づくりに関わっているが、仙台市の取り組みは非常に楽しそうに見えると感じた。柴田町などではまだ治療のような感じに見えると感じた。

配布された各種チラシにも目を通したが、多様なイベントが幅広く実施されていることがよく分かった。

事前に案内いただいた「アールク・ウゴーク」は、レクリエーション協会の会員にも配布した。会員は、現在も活発に運動している65～70歳代の方が多い。指導者で活躍されている方も多く、中にはダンスをしているこどもを連れていきたいという声もあったため、こどもの興味を誘うプログラムではあったと思う。

私たちの研究でも、特定の年代だけを対象にするイベントで結果を見えるようにするのは難しい。これらの取り組みの成果について、例えばドラゴンクエストウォークではこのような成果があった等があれば教えていただきたい。

【健康政策課長】

まず、仙台市の取り組みを「楽しそう」と評価いただき、大変ありがたく思う。これらは地域保健・保健所運営協議会の構成団体の皆様のお力添えによって実現しているものであり、仙台市だけではなく、委員の皆様のご協力の賜物である。改めて感謝申し上げます。

アールク・ウゴークの成果についてであるが、掲載した各課からも「各課のイベントをまとめて実施することで、あるイベントにきた市民へ別のイベントも案内できる」という重層的な周知が可能となり、広がりがあった。

チラシは1万部程度の限られた印刷部数であるが、観光戦略課や動物園などとの連携により、結果として参加人数が9万人を超える規模となった。これが一番の成果であると考えている。

数値的な効果はまだ検証中であるが、今後、メタボ該当率の改善、市民の歩数増加などが見られれば、非常に喜ばしいと考えている。

【高崎委員】

追加であるが、せっかく楽しそうなイベントで、続いたほうが良いと思う。様々なウォーキングサークルがあるので、そのようなサークルにお声がけをして、続いたかどうか、歩数が増えたかどうか、発表の場で来年も、というような形で繋がっていくような仕組みがあ

ったほうが良いと思う。

また、歩く距離や運動負荷（カロリー消費等）も示されると、運動をする方にとって分かりやすく、より興味を持ちやすくなる。今後ご検討いただければありがたい。

（４）令和７年度 保健所の主な取り組み状況について
事務局（予防企画課長）から資料２のとおり説明

【委員長】

何かが起こったときに備える準備は非常に重要であり、日頃から取り組んでいただいていることに感謝する。私から一つ質問であるが、今年もインフルエンザが流行したが、電子化やDXの普及によって、市役所内部の事務が楽になるなどの効果はあったのか。

【予防企画課長】

先ほど説明したとおり、手続きの電子化を進めており、その中には自己負担金免除申請のオンライン化なども含まれる。インフルエンザ予防接種は、実施期間が10月～1月と限られているため、この時期に申請が集中する傾向にある。

電子化により、職員の事務負担の軽減、手続きに要する日数の短縮が図られ、より早く利用者へ自己負担金の決定通知書を届けられるようになった。このような改善が進んでいるところである。

【下山田委員】

IHEATの件について、登録者42名のうち、実際に研修へ参加できたのは何名か。また、登録者は本来業務を抱えながら、いざとなったときに協力する立場であり、研修のあり方として、業務との兼ね合いも考慮する必要があるのではないかと感じた。そのあたり、状況も含めて教えていただきたい。

【予防企画課長】

研修への参加者数であるが、IHEAT要員として参加いただいたのは6～7名であった。これに加えて、区役所職員や宮城県職員も参加している。

登録者数に比べ参加者が少ない点は事務局としても認識しており、開催時期、開催時間（平日日中）などが影響していると考えている。

実際にIHEAT要員として支援いただく際も、本来業務との調整が必要となる。その点も十分に考慮しながら、まずは研修の開催日程や内容の工夫について、宮城県とも連携しながら検討したい。

なお、当日参加できなかった登録者の方々にも、当日の資料等はシステム上で共有する。

【松永委員】

保健所関連から少し離れるが、全体についての質問である。まず仙台市へ御礼を申し上げたい。これまでの施策の中で着実に進展があり、まず、新生児の1か月健診が始まったということでありありがたいと思っている。5歳児健診の導入に向けた検討については進めていただきたい。RSウイルスワクチンが4月から始まるが、私は婦人科のため、妊婦さんに接種するという事で、仙台市と一緒に安全に施行していきたい。

一方、HPVワクチンの接種率について、キャッチアップ接種は1年延長されたものの、今年度は昨年度ほど伸びていない印象である。定期接種も進んでいないように感じる。周知方法や改善策について伺いたい。また、地域によって接種率に差があるので、それについても教えてほしい。

また、出産育児一時金に9万円上乗せ支給する施策は、仙台市の非常に大きな英断である。少子化が日本最大の課題である中で、こうした支援は極めて重要であり、今後の追加施策についても考えがあれば伺いたい。

【こども家庭部長】

産婦人科医会、小児科医会に協力いただいて、昨年10月から1か月児健診を公費で実施している。

5歳児健診についても、昨年度から小児科医会の協力をいただきながら、専門機関とワーキングを開催し、手法等の検討をしている。令和8年度に検証を行い、令和9年度の開始を目指して検討を進めている。

出産育児支援金についてであるが、現在、保険給付として50万円が支給されている。しかし、市内の医療機関などにおける出産費用の平均が58万6,000円程度であることから、不足分を補うため、本市では令和7年10月より9万円の市独自給付を開始した。こちらも産婦人科医会等、いろいろとご協力いただき、こちらからも御礼申し上げたい。

【予防企画課長】

続いてワクチン接種関係についてお答えする。まず、来年度よりRSウイルスワクチンが新たに定期接種化される予定である。こちらについても市医師会と連携し、希望者が確実に接種できるような環境整備を進めていく。

次にHPVワクチンについてである。キャッチアップ接種は当初、令和4～6年度を対象として開始されたものであったが、その期間内に1回でも接種した方については、令和7年度末まで接種期間が延長される経過措置が設けられた。本市としても、対象となる方が期間内に接種できるよう、再度個別通知を送るなど、周知に努めてきた。今年度末をもってキャッチアップ接種は終了となるため、今後は定期接種の周知をより強化する必要がある。

現在、接種開始学年である小学6年生、最終対象年である高校1年生相当の方に対して個別通知を送付しているが、内容・タイミングともに改善を図り、希望者が確実に接種できるような情報提供を行っていく。

【委員長】

一時期HPVワクチンについてはかなりヒステリックな感じの議論があったが、最近のこども達の受診は受容されているのか。あるいは伸び悩んでいるのか。どの程度と把握しているか教えてほしい。

【予防企画課長】

接種率については、対象者の母数が学年ごとにスライドすること、またシステム化される前の接種記録を持っていないことから、正確な率を計算するのが難しい状況である。

ただし、近年は国や自治体の広報が進み、接種への抵抗感は薄れてきているものと捉えている。

【小田島委員】

関連して、個別通知を行っている点を評価する。一方、2回まで接種して3回目が未接種で、期限の3月末を過ぎてしまう人への救済措置は考えているか。

【予防企画課長】

今年度末までの期限であることを踏まえ、周知には注力してきたため、接種完了は3月末までとお願いしている。4月以降に3回目を接種する方への独自の追加助成や救済措置は検討していない。

【小田島委員】

11月の通知には詳しく書いていただいているが、記載内容が網羅的なため、（期限に気づかず）2回接種でとどまっている人がいるのではないかと。

【委員長】

2回接種でとどまっている人はどのくらいいるのか。把握していればもうすぐ助成が切れてしまうけど本当に大丈夫かという連絡を入れられるように思う。

【予防企画課長】

正確な数字は手元にないが、システム上、接種実績は確認できる。ただし、個別に追加通知をすることは現時点で検討していない。ホームページには、期限が迫っている旨の案内を随時掲載している。

【小田島委員】

自治体だけの役割ではなく、制度を延長した国側の決定でもあるため、今後も声を上げていく必要があると感じている。

続けて、人材育成のガイドラインについて質問したい。ガイドラインと研修プログラムを年度内に策定するとあるが、どういった分野の役割の人材を育成し、有事に活用するのか。

また、IHEAT 要員 42 名の登録が必要数として十分なのか、判断基準を教えてください。

さらに、予防接種手続きのオンライン化について、高齢者を含め様々な方が利用することになるが、操作性やシステム設計がどうなっているのか教えてください。

【感染症対策課長】

仙台市の感染症対策分野の人材育成ガイドラインと研修訓練プログラムについては、年度内の完成を目標に策定を進めている。

このガイドラインは、コロナ対応をふり返る中で、対応部署の多くの職員が人事異動を迎え、コロナ対応で得られた貴重な知識や経験が継承されにくい状況にあることが背景にある。また、新型コロナ対応の影響で、他の感染症対応について研修や実務経験を積む機会が減少しており、今後の新興感染症を見据える上でも、体系的で継続的な人材育成が不可欠である。これを組織的に推進するための指針としてガイドラインを作成している。

ガイドラインの対象は、各区保健福祉センター管理課職員、感染症対策課職員であり、この人材育成を推進する枠組みとして、感染症の人材育成に必要となってくる研修訓練を網羅した「研修訓練プログラム」の作成を今進めているところである。

【予防企画課長】

次に、高齢者の利便性を考えたオンライン手続きについてである。オンライン申請画面は、利用者が迷わないよう、入力項目を明確化し、ボタンを押していけばゴールにたどり着けるよう、職員内部で確認を重ねて設計しているものである。

また、IHEAT 要員の人数についてであるが、本市の予防計画上では 10 名を目標に掲げている。現在の登録者 42 名は、その目標に対して十分であり、大変ありがたく受け止めている。

【小田島委員】

今、仙台市のみやぎポイント 3,000 ポイント付与について、非常に多くの話題となっているところであるが、例えば「区役所でも説明を受けられますよ」というように最後まで説明すると、市民の皆様も「そうか」と納得いただける。丁寧な説明・取り組みに繋がってほしい。

【下山田委員】

ただいまの IHEAT の目標 10 名という点に驚いた。コロナ禍の状況を思い返すと、10 名で対応できるのかという疑問を感じる。在職で IHEAT に、となると、実際には本来業務との調整が相当必要であるため、登録人数がそのまま実務に従事できるとは限らないという想定も必要ではないかと感じた。参考意見として述べさせていただく。

【予防企画課長】

目標として 10 名と申し上げたが、即応可能人数としての目標である。登録者数が 10 名で足りるのかというとそういうことではなく、今後も引き続きより多くの方にご登録いただいて、有事の際に保健所業務のご支援を賜りたいと考えている。

【委員長】

登録者数10名で十分だと思われると、登録中の先生方が不安に感じる可能性があるため、表現には注意が必要だと思う。

【小田島委員】

医師会の先生方からも心配の声が上がっているが、昨今の猛暑で夏の健診が難しいのではないかと声が届いている。健診時期を延ばす、時間帯を配慮する等の議論がどうなっているのか、現状を教えてほしい。

【健康政策課長】

仙台市医師会と協議を進めている。まだ健診の登録医療機関の先生方に周知できていない状態のため明言はできないが、市医師会には前向きに検討いただいている。

(5)「その他」

意見等なし。

4 閉会